

リーディングフォーラム講演まとめ

今週水曜日（12月4日）に東京にてリーディングフォーラムがあり、そこで文科省大臣官房審議官（高等教育局及び高大接続担当）玉上晃さまからリーディングについて総括される講演がありましたので重要な点についてまとめさせていただきます。

- 学位プログラム
- 学生の活動実績の詳細調査
 - 大学のデータをもとに文科省で独自解析
 - 学生一人ひとりを追跡
 - 産業界へ進んでいった人材は約4割
 - リーディングは産業界に博士人材を知ってもらう、という意味もあった
- 期待される点
 - リーディングのブランド化。長期的な検証。 追跡調査を心がけていただきたい。
リーディングの学生が世界で活躍していることを示したい。
 - リーディングをモデルとして、他の大学院も改革できているか 企業外部にはいってもらって、独占教育体制を変革する。
 - リーディングでの知見を元に、**全学的な大学院改革の体制を作っていくこと！**
- 今後
 - 2040年を見据えたグランドデザイン
色んな所で使えるトランスファラブルな能力を持った人材。幅広い教養
 - プログラムの目的設定を明確にし、卒業人材がどのようなスキルを持っているのか、が明確になるように。定員を状況に応じ増減させる。AIなど、分野に応じて増やすことも大事。
 - コースワークの充実。学内リソースを効率的に活用する。
 - 今後はリーディングだけでなく、全国の大学へ。
そのために 学内（改革）から。学内の他の教員への成果の広報、そして理解を求める。

事後評価結果 プログラム全体を総括した見解①

◆評価される点

- ✓ **【全学の大学院改革への波及】** プログラムにより従来の枠組みを踏えた挑戦が成し遂げられ、組織内編や学位プログラムの横断編等の全学段階での大学院改革までつながっている。
- ✓ **【異質性ある人材養成の仕組みの構築】** 大学は専門分野での頂上を目指すことに注力する傾向にあり、培われた知見と人材が社会の諸問題の解決につながりにくいことが課題であったが、本事業により両者をつなげる人材育成システムとして、大学における専門教育と社会の諸問題解決に必要とされる能力の高さを両立する仕組みが構築されている。
- ✓ **【キャリアパスの多様化】** 各プログラムの特色あるカリキュラムによって、分野横断等の学位プログラムの改革につながり、就職先又は将来設計として、アカデミアに留らず、様々な分野に目を向ける学生が育成されている。

◆今後の課題とされる点

- ✓ **【全学的な共通理解】** 一部の教員のみが理解し、それ以外の教員からの理解・協力が得られていない状況が見られる。一部の教員又は担当だけの取組として終結することのないように、学長のリーダーシップの下で全学の理解・協力を得るための一層の努力が求められる。
- ✓ **【学生への教育上の配慮・支援】** 各専門分野における頂上を目指す専門教育と、学際性・応用力・総合力を涵養するための教育が併存するカリキュラムであることから、学生の適度な負担への配慮が求められる。また、目指す点が異なる両教育を実施する上で、学生がプログラムの趣旨を理解することは不可欠であることから、履修前後における導引・フォローに係る一層の努力が求められる。
- ✓ **【支援期間終了後の継続的な取組】** 支援期間終了後に各大学に則した無理のない形での定着・発展につなげられるように、支援期間中から計画的に大学院改革に向けて検討を進めることが求められる。支援期間中のみ実施するのではなく、支援により行った大学院改革については、大学全体として生かすとともに、他の大学における今後の大学院改革に生かされることが望まれる。

14

事後評価結果 プログラム全体を総括した見解②

◆期待される点

- ✓ **【博士人材全体の評価向上】** 輩出された学生が社会で自らの価値を証明していくことにより、博士課程教育のイメージがプログラムのフロントに広がることを期待する。また、本事業を通じて博士人材全体の価値向上につながることも期待する。
- ✓ **【長期的な検証】** 人材育成事業であることから、大学及び文部科学省において、10年、20年という長期間にわたるフォローアップした検証調査を実施することにより、本事業としての成果・実績が検証されることが求められる。
- ✓ **【グローバルリーダー育成の更なる実現】** グローバルに活躍できるリーダー人材を育成するという本事業の趣旨を、今後も展開させていくことを期待する。
- ✓ **【取組継続・発展のための全学的体制の確保】** プログラムで得た成果を適宜に、学長のリーダーシップの下で、組織・事業単位から大学として定着していきながら他部を支援した上でしっかり構築して、大学院の在り方、教育の在り方といった大学院教育そのものの改革も含めて、制度設計や運営体制の具体化・明確化を行い、他が国全体の博士課程教育プログラムを活性化し、更なる発展につながることを期待する。
- ✓ **【文部科学省による継続・発展方策】** 文部科学省においては、得られたプログラムに対しては引き続き様々な形でサポートすることを期待するとともに、本事業の検証活動を通じた成果や知見を今後の事業に継承させる制度設計を期待する。

15

中央教育審議会における議論 2 大学院の課題に関する検討状況(現状・課題)

2040年頃に進展する社会の変化と「知のプロフェッショナル」

Society 5.0 等に向けた社会の変化の中で、大学院は、知の生産、価値創造を主導する「知のプロフェッショナル」の育成を中心に据える存在。

「知のプロフェッショナル」には、

① 学問領域で身に付けることが求められる基礎性や批判的思考力、コミュニケーション能力等の基礎的なスキル、リテラシーのいずれも高い水準で身に付けていること

② 自ら課題を発見し表現を構築する力、社会を主導する力、様々な場面で通用するトランスファスキルなど

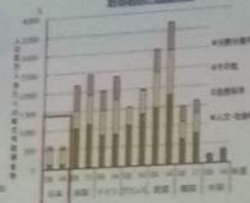
③ 各セクターを主導できる領域にわたる高度な専門的知識

が求められ、あわせて、STEAM¹、データサイエンス、人文・社会科学も含めた幅広い知識が必要。

① STEAM=Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics

諸外国と比較して専士は約1/3、研士は約1/5、特に人文・社会科学で低い。

人口100万人当たりの博士学位取得数の国際比較



人口100万人当たりの博士学位取得数の国際比較



大学院教育が2040年の需要に応えるために

「博士課程教育リーディングプログラム」等に取り組んだ大学院において、大学院教育の高度化、経済的支援、国際経験の充実、産業界との連携が進展

一方、入学定員の未充足の傾向化が見られ、また、大学の強みや特色を踏まえた人材養成が出来ているとは言い難い状況

諸外国に比べ専士・研士学位取得者の割合は低く、2040年に向けた「知のプロフェッショナル」の確保に大いなる課題が生じる可能性

特に博士後期課程は、大学院のカリキュラムと社会や企業との間にギャップがあるとの指摘

こうした課題がキャリアパスへの不安を招き、大学院への進学を躊躇

2040年の社会の需要に応えていくためにも

単独に「大学院教育の体系化」が必要

中央教育審議会における議論 3 大学院教育の改善方策

① 三つの方針を出発点とした学位プログラムとしての大学院教育の確立

4つの人材養成機能 ① 研究者養成 ② 高度専門職業人養成 ③ 大学教員養成 ④ 知識基盤社会を多様化する高度で知的な実務のある人材の養成 を踏まえつつ、各大学院が強み・特色を活かして人材養成目的を見直し、

- 学位プログラムとしての大学院教育を確立するため、「三つの方針」(「学位課程の方針」、「教育課程編成の方針」、「入学選入の方針」)の策定・公表を義務付け、大学院は、三つの方針に基づき、自ら継続的に検証・改善し学位の質を担保(内部質保証の確立)
- 学生の進路に責任を負う観点から、修了者の実態の把握・追跡等を踏まえ、教育研究組織の在り方や進路の状況に応じた定員の縮小・振替を含む見直し

② 各課程ごとに定められる教育等の在り方

- 学位課程を履修の科目等を通じて体系的に履修するコースワークの充実(「博士課程教育リーディングプログラム」のモデル化等の普及、(旧専士)「博士課程プログラム」の普及に連動した事例の紹介等)
- 履修専攻制や、「学部・研究科等の組織の枠を超えた学位プログラム」等の活用
- ダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリー等の推進

- 【博士課程】
 - 学問的知識教育との有機的な接続、高度・広範な専門的能力と高度の汎用的能力等の育成等(大学院設置基準で定められた修了に必要な単位数を満たした履修科目等の実施を含む)
 - 【博士課程】
 - 博士課程との連携強化(主専攻以外の科目の体系的履修、実務家教員による実務的教育、企業等メンターの活用等)、ブレFD実施、情報提供の努力義務化等
 - 【専門職大学院における課程】
 - 実務家教員向けFDの充実、国際的な評価機関の認証に向けた検討等

③ 研究指導体制の強化と学位審査の透明性・公平性の確保

- 研究指導体制の強化と学位審査の透明性・公平性の確保(学位審査・学位論文の公開、修了論文の公表等)
- 博士論文研究基礎力審査の在り方の検証など

④ 企業と博士課程修了者の相互理解が進む取組の推進等

- 企業と博士課程修了者の相互理解が進む取組の推進等
- 大学としての組織的なキャリア支援など

⑤ 体系的な教育プログラムの確立

- 体系的な教育プログラムの確立
- 人文・社会科学系大学院で身につく能力の可視化、社会ニーズへの対応など

⑥ 「入学選入の方針」に日った大学院入学の改革

- 「入学選入の方針」に日った大学院入学の改革(大学院入学試験実施要領等の見直し)
- 進学の意思決定タイミングを踏まえた経済的支援の制度設計等
- 在学中に必要な学費や経済的支援の見通しの提示の努力義務化など

⑦ 社会人の時間的・空間的障壁を低下させる取組促進

- 社会人の時間的・空間的障壁を低下させる取組促進(修業年限・学習環境の工夫や、学位以外のプログラムの活用等、柔軟な教育課程の編成)など

⑧ 大学院改革の優れた取組を「卓越大学院プログラム」で支援

- 大学院改革の優れた取組を「卓越大学院プログラム」で支援
- 研究室の状況が変化の中で研究環境の確保について総合的に検討
- 大学院全体の課程の在り方(博士後期課程レベルの高度専門職業人養成を含む)を引き続き検討